

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和6年

11

No.1440



彩り鮮やかに、
メイクアップ

今月の高槻な人

金田英里さん

[メイクアップアーティスト]

PICK UP

10 ほどよい子育て

16 NO! スポハラ

22 ますます盛り上がる
将棋のまち高槻

TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

金田英里さん

[メイクアップアーティスト]



彩り鮮やかに、
メイクアップ。

メイクアップアーティストとして関西で活躍する金田さんは、高槻生まれの高槻育ち。地元のよさをずっと感じながら、今も高槻で暮らしています。いつまでも居たくなる街の魅力と、仕事との関係について話をうかがいました。



モデルや俳優たちにメイクを施します。

メイクアップアーティストは、雑誌、テレビ、広告、舞台などに出演するモデルや俳優たちのメイクを担当します。特に雑誌のファッション撮影では欠かせない存在です。



たくさんのメイク道具を入れて運ぶバッグ。

メイク道具を持ち運ぶバッグ。「4輪キャリーを使っている方も多いですが、私は2輪派。割れ物が多いので、中をしっかりタイトに調整できる布タイプが好み」と金田さん。



撮影の内容に合わせて、ヘアスタイルも自由自在。

メイクアップアーティストはヘアメイクと呼ばれることも多く、化粧に加えてヘアスタイリングも。限られた時間の中でさまざまなスタイルを作りあげる技は見事です。



メイクアップに必要なさまざまな道具。

メイクアップに必要なさまざまな道具。スキンケア、ベース、コントロールカラー、コンシーラー、ハイライター、ファンデーションなど、肌作りだけでもこれだけのコスメを少しずつ重ねてメイクをしています。

TAKATSUKI NA HITO



彩り鮮やかに、
メイクアップ。

TAKATSUKI NA HITO

高槻な人

金田英里 さん

[メイクアップアーティスト]

山と川があって、病院も多くて、 とても居心地のいい高槻。

—金田さんは、高槻生まれの高槻育ち。一度も高槻市から離れたことはなかったのですか？

「そうですね。美容の専門学校に通っている時、一人暮らしを試みたくて、1年だけ学校のある大阪市・難波周辺に住んでみたくて、全然高槻の方がいいなと思って。すぐに帰ってきましたね(笑)。海外留学も何回かしているのですが、結局高槻に帰ってきています。暮らすのは高槻か海外かどっちかという感じですね」

—それほどまで高槻で暮らしていた理由は何でしょう？
「うーん、何だろう？ …やっぱり、すごく居心地がいいですね。山と川があって。病院もいっぱいあって安心できる。高槻市内で何回か引っ越しをしているのですが、高槻から

金田さんの歩み	
昭和58年 1983年	高槻病院で生まれる。すぐお母さんのお腹を蹴っていたので、両親は男の子だと信じていたそう。
平成元年 1989年	この年に開校した北日吉台小学校に入学。続いて芝谷中学校に入学。
平成13年 2001年	高校を卒業後、美容専門学校に入学。
平成20年 2008年	アメリカに初めての語学留学し、帰国後、メイクアップアーティストの師匠のアシスタントに。
平成26年 2014年	韓国への語学留学。メイクアップアーティストとして独立立ちをする。
平成28年 2016年	結婚。人生の転機を迎えても、変わらず高槻に住み続ける。ロンドンに語学留学をする。
平成29年 2017年	若手のメイクアップアーティストに声をかけて事務所を設立。その後すぐに、娘を高槻病院で出産。

離れる考えはなかった。メイクアップアーティストという仕事をしていると、京都や大阪、神戸など、いろいろな場所で撮影があるので、どこへ行くのにも便利で助かっています」

—メイクアップアーティストの仕事をしたと思ったのはいつ頃、どういうきっかけで？

「中学生の頃、ストリートファッション系の雑誌を見て、そこに出てるすごくすてきな人が、「職業/ヘアメイク」と書いてあって、ああヘアメイクというお仕事があるんだと知りました。友達に試しにメイクしてあげたら、『すごい！ 才能あるよ！』とほめられました。すぐその気になるタイプなので(笑)、よし、ヘアメイクを目指そう！ と思いました」

「ヘアメイクを通して、みんなでいい表現を作っていくのは楽しい」と金田さん。

—中学生の頃に、自分がやりたい仕事が見つかるのはなかなかないこと。ましてやその夢を実現するのは難しい。どのようにして今の仕事に就かれたのですか？

「高校卒業後に美容専門学校へ行きました。この頃は、メイクアップアーティストになる！ ってことは決めてたけど、海外が大好きなので留学もしたくて。そのお金を貯めるためにいろんなところでバイトをしてました」

アシスタントを1カ月でクビに。それでも通い続けた3年間。

—専門学校を卒業して、すぐにメイクアップアーティストの仕事をするようになったのですか？
「まずは、アシスタントからのスタートですね。専門学校を卒業し



「高槻市内では、安満遺跡公園などでモデル撮影をしました」と金田さん。

モデルさんとのコミュニケーションもメイクアップアーティストの大切な仕事。

て22歳の時にアメリカ留学。半年ぐらいで帰ってきた時に、私の師匠にあたるヘアメイクさんのアシスタントが空くんで、やってみる？ みたいな感じで誘ってもらって、その後専属のアシスタントになりました。25歳の時です」

—それはラッキーでしたね。
「はい。でも1カ月で『もう来なくていい！』とクビになったんですよ(笑)」

ヘアメイクをするには、本当に多くの道具が必要ですよ。

—えっ、それは早い！ 憧れの仕事の第一歩を歩み始めた時に、ショックですね。
「でも、勝手に3年間通い続けて、アシスタントの仕事もしてました。そのうち2年目ぐらいで師匠も折れたのか、やさしくなってきて…。今では、私の結婚式に出席するためにハワイまで来てくれたり、いい相談役になってくれます」



—そこから、メイクアップアーティストへの道を歩まれますね。
「はい。事務所にて22歳から8年間所属した後、30歳の時に独立しました」

—独立したわけですが、最初から仕事はあったのですか？
「いや、やっぱりヘアメイクだけではやっていけないので、高槻の日向町のスーパーでアルバイトをしていました。私、スーパーの仕事が大好きなんです(笑)。そこで、同じく高槻に住んでいるヘアメイクの先輩と出くわして。あかん、私品出して場合ちゃうって(笑)。そこからヘアメイク作品の撮影をいっぱいしました」

—そんな駆け出しの苦労も経て、今ではバリバリに仕事をしている金田さんですが、最近のメイクアップの傾向などはありますか？

「韓国風メイクのオーダーがめちゃくちゃあります。20代前半の子などは、K-POPが大好きで韓国のことをよく知っている子が多い。だから、化粧品や下着、ファッション撮影で、『韓国っぽくしてください』とよく言われます。私、韓国籍で韓国に語学留学をしたこともあり、韓国語を少し話せるということで、韓国の俳優のヘアメイクの仕事依頼もきます」

仕事と子育てを両立させるために高槻の環境はとていい。

—お仕事で活躍されている一方で、子育てもされているんですね？

「小学校1年生の娘がいるのですが、昔からの地元の友達の子どもが同年代だったりするので、一緒に遊んだりしてもらえるのは助かります。いろいろと子どもを育てる上で高槻は本当に便利。娘が0歳の時から保育園に預けられたし、公園も多いし」

—まだ小さいお子さんですが、子育てをしていく上で気をつけていることなどはありますか？



「子どもにも英語を身につけさせたくて。英語を話せば、どこでも生きていけるかなと、3歳ぐらいから英語教育をしているスクールにも行っていました。今は、地元の市立小学校に通わせています。英語は続けてほしいし、ちょうど今春、娘が小学1年生になるタイミングで、いい英語の学童が高槻にできたんで通っています。この1カ月は宇宙について勉強しようとかカリキュラムも面白くて、こういう学童が選べるのもいいですね」

「最近の20代の子は本当に韓国メイクに詳しくて、こちらが教えてもらったりしています」と金田さん。

—娘さんのこれからの活躍も楽しみです。仕事のこと、子育てのことでこれからやっていきたいことはありますか？
「次は娘と一緒に母子留学したいですね。私、海外が好き…というより留学が好きで、学生になりたいんですよ。」

道具を運ぶバッグは、瓶やアイロン、水分などで30kgほどになるので重さにも耐えられる頑丈なタイヤがマスト。

ロンドンへは私が33歳の時に留学したんですけど、60代の女性がいたりして。一緒にクラブ行こう！ とかすごく楽しかった。

外の世界を見るのは大好きですが、帰ってくるのは高槻です(笑)。仕事仲間から、『東京に行くと行ってた』なんて言われたりしますが、いや高槻やで(笑)。高槻が最高やでって」





好きなヒト & スポット



01

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

萩谷総合公園

萩谷

約7割が緑地！自然環境に恵まれた広大な公園。

山深い萩谷の地で、自然を生かしながら、サッカー場、野球場などの運動系ゾーン、多目的広場やわんぱく広場などの休養・遊戯施設ゾーン、森林浴や野鳥観察が楽しめる自然ゾーンからなる公園。「とにかく広くて、子どもが思う存分楽しめます。娘は結構活発な子どもなので、父親がそばにつきながら大型遊具などでも怖がらずに奔放に遊んでいます。そのほか、安満遺跡公園や今城塚古墳公園など、高槻は公園が多いので、子育てには助かります」と金田さん。

食パンから菓子パン、惣菜パンまで100種以上のパンが並び、写真は人気No.1のカレーパン、ガーリックのきいたタコと海老のアヒージョ、カスタードとチョコが入ったパンダパン。



02

スポット

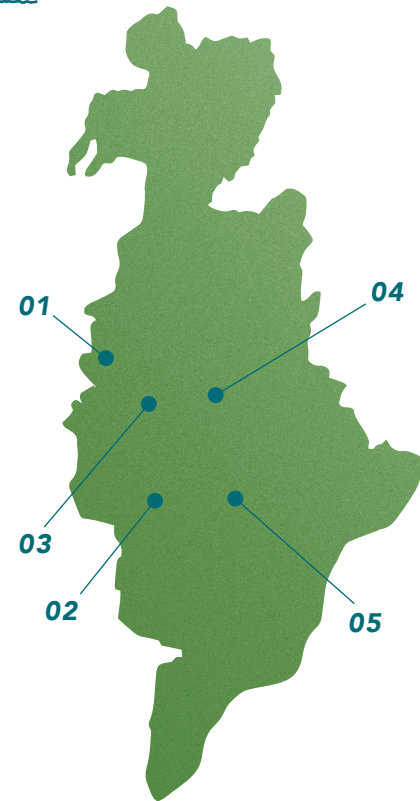
TAKATSUKI NA SPOT

サニーサイド 高槻岡本店

岡本町

豊富な種類のブーランジェリー&カフェ。

「娘が通っていた英語のスクールが近かったので、よく行くようになりました。パンの種類が豊富なので、私はいろんなものを食べるのですが、娘の定番はパンダパンでしたね」と金田さん。[サニーサイド]は北摂を中心に店舗を展開していますが、全店舗同じメニューではなく、各店でオリジナルのパンも多数。高槻岡本店では、毎月6種類前後の新商品が登場し、スタッフ一人がメニューのアイデアを考案し、店長に認められれば店頭に並ぶことも多いそう。毎日焼きたてのパンが味わえ、週末は行列覚悟の人気店。



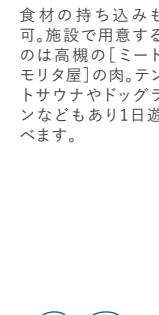
03

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

三好の里 バーベキューガーデン

塚脇



食材の持ち込みも可。施設で用意するのは高槻の[ミートモリタ屋]の肉。テントサウナやドッグランなどもあり1日遊べます。

川のせせらぎや鳥の声を聞きながらバーベキュー。

摂津峡の渓谷美を鑑賞しながら、バーベキューを楽しめる施設。「最初は友達家族に連れて行ってもらって、めっちゃいいやん！ってなって。いくつかエリアがあるのですが、私のお気に入りにはBエリア。川が間近で、大きくなってきた娘を川で遊ばせながら肉を焼いています」と金田さん。摂津峡でのバーベキューは禁止されているので、川のせせらぎを楽しみながらバーベキューができるのは貴重。「毎年6月頃のホテルの季節には、ナイトバーベキューで鑑賞できるのもうれしい」

04

スポット

TAKATSUKI NA SPOT

寺谷町のバス通り

寺谷町

学生時代の思い出も詰まったストリート。

金田さんが寺谷町に住んでいた時、芝谷中学校まで通った通学路。「中学の時はバスケット部だったんですが、部活帰りに漂っていた金木犀の香りが印象的でした。高校の時はこの通りにあったスーパーマーケット[ミートモリタ屋]でアルバイトもしていました。隣のパン屋さんには2代目と思われるお兄さんがいて、あっ結婚されたんやな、お子さんではったんや！とか、勝手にお兄さんの人生の移ろいを想像しながら親しみを感じていました」

05

ヒト

TAKATSUKI NA HITO

ネイルサロン ナエマ 伊藤江利子さん

芥川町

小さな頃には隣同士で、
出産の際に病院で再会！

もともと寺谷町で隣同士に住んでいたという伊藤さんと金田さん。お互い妊娠中に通っていた高槻病院で約10年ぶりにばったり再会します。「娘同士が同年なので、よく一緒に遊んでもらっています」と金田さん。[ネイルサロン ナエマ]は、上宮天満宮の大鳥居の近くに16年前にオープン。「その頃高槻には、まだまだネイルサロンはなかったですね」と伊藤さん。仕事柄ネイルアートはあまりしないという金田さんも、「撮影で凝ったネイルが必要だった時に、江利子さんをお願いしてすてきなチップを作ってもらいました」



小学1年生の娘を持つ伊藤さんは「やはり高槻は仕事をしながら子育てをするのにいい環境ですね。公園も多いし、安満遺跡公園のふわふわドームが年齢別で遊べてお気に入りです」